

目的 今日被服における品質要求性能と共に被服の図柄や色彩への研究も盛んで、着用者の膚色との調和についても強い興味を示される。今回、前報にひき続いて被服における図柄と膚色との相互関係について5種類の膚色を選び、32種類の縞柄とのイメージのかかわりをSD法を用いて計量を行い因子分析を試みた。

方法 膚色の測定部位は額、頬、顎の三ヶ所で、測定は被験者を椅子に腰かけさせ高速分光色彩計CMS-1000型（村上色彩研究所製）により測定した。そしてベージュな型のワンピースの太縞、細縞の二種類の太さによる縦、横の図柄をモデルに着装させモデルの膚を算出した5色の膚色に、また各々の縞柄パターン4種類については各8色ずつ、カラーシミュレーション装置（日本色研事業676RC）により計160種を求め刺激とした。

結果 太さにおいては、細いほど「暗い」「年老いた」イメージ、色についてはピンクの縞柄は「弱い」「穏やかな」赤は「強い」「興奮した」、黒・茶色は「暗い」「年老いた」黄色は「明るい」「若々しい」が目立った。方向については、縦は「弱い」「暗い」、横は「強い」イメージとなった。さらに縞柄を膚色について考察してみると、「美的」「色白」の膚色は「弱い」「穏やかな」イメージ、特にピンクで縦方向はイメージが強まった。また「小麦色」は太さ、方向に関係なく黄色の縞柄は「明るい」「若々しい」イメージとなった。